

宮崎県立西都原考古博物館

考古博講座のご案内



- 1 日時 2018(平成30)年8月25日(土) 13:30~15:30
- 2 会場 宮崎県立西都原考古博物館 多目的ホール
- 3 講師 韓国全谷先史博物館 館長 李 漢 龍 (Lee Hanyong)
- 4 演題 『文化資産の活用と全谷先史博物館』

阪神淡路、東北、熊本など未曾有の自然災害を経験した現在、地域の歴史とそこに住む市民の関わりはより強く意識されるようになり、歴史系博物館の担うべき役割は高まっています。

また、本年5月には、西都市・宮崎市・新富町より申請された「南国宮崎の古墳景観」が日本遺産に認定されました。このことは、数年前から宮崎県と関係市町村が協力して推進している「南九州の古墳文化」の世界文化遺産登録に向けた活動にも大きな弾みになることと思われます。

こうした中で、考古学と市民の関わり、歴史系博物館が果たすべき役割等について、1993年から四半世紀にわたり「全谷旧石器まつり」を開催している韓国の全谷先史博物館の活動は非常に注目すべきものであります。参加者数十人から始まって、現在では数日間の開催期間に10万人以上が参加する大イベントとなった様子は、博物館、自治体、学校、地域住民(飲食業や商業者を含む)が強く連携を図ることで、持続的な発展が可能であることを示しており、文化財保護、地域づくり、観光振興等に関わる多くの人達が学ぶべき内容が含まれています。

(参加無料、事前の申込みは不要です。)

【講師の紹介】

李 漢 龍 (Lee Hanyong)

1967年 ソウル生まれ
漢陽大学 文化人類学(考古学)専攻卒業
博士課程修了
専門:考古学(旧石器時代)
2015年より 全谷先史博物館 館長

